

3

Once upon a time, in a remote village, deep inside a forest, there was a young man named Yasuke, living alone.

One day, Yasuke went out alone for hunting on a winter snow covered mountain.

On his way back home, Yasuke found a single crane in a rice field, flapping its wings in distress.

The crane couldn't fly due to an arrow stuck in its wing.

Yasuke felt pity for the poor crane and kindly pulled out the arrow, and the crane soared high into the sky safely.



5

That night, Yasuke woke up after hearing somebody knock on the front door.

"Who could that be, at this hour of the night?"

When Yasuke opened the door, there was a young lady standing there.

"I am on my way to the town to start working there, but I got lost because of this heavy snow. If it's fine with you, would you please let me stay here for the night?"

"That's fine. Please come in."

The lady introduced herself as *Otsu*.



むかし むかし、やまおくのひとごととはなれた
むらに、やすけ という わかものが、
ひとりで すんでいました。

あるひ、ふゆの ゆきぶかい やまへ、
やすけはひとりで かりに でかけました。

その かえりみち。やすけは、
ばたばたと はねを ならしながら、
たんぼの なかで くるしんでいる、
いちわの つるを つけました。

つるは はねに やが ささり、
けがをして とべなくなっていたのです。

ふびんにおもった、やすけが つるの はねから
やを ひきぬくと、つるは ぶじ、
そらたかく とびたっていきました。



そのよる、だれかが いえの とを たたいているのに
きがつき、やすけは めをさしました。

「こんな よなかに、いったい だれだろう？」

やすけが とを あけると、そこには
ひとりの わかい むすめが たっていました。

「まちに はたらきにでる とちゅうなのですが、
この ゆきで、みちに まよって しまいました。
ひとばんだけ こちらで とめて
いただけませんか」

「ええ、かまいませんよ。おはいいり ください」

むすめは なを『おつう』と なのりました。

